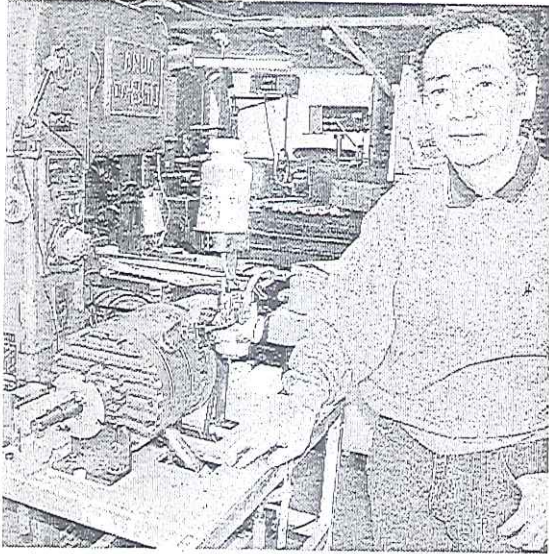


# 中学の宿題、73歳にして成る

## 中川区の町工場主、ロータリーエンジン試作

名古屋市中川区の町工場の経営者が、独自のアイデアに基づく新型ロータリーエンジン試作に成功した。基本構造となったのは、中学3年の理科の宿題で描いた図面。「夢のエンジン」の試作機は60年の曲折を経て来月上旬、披露される。

工作機械部品製造業「アロジン」の内部構造を描き写し「アイデア技研」の堀内政晴さん(73)。「特許出願中で詳しい説明はできない」という堀内さん。高校時代もアイデアを進化させた。卒業後、埼玉県蕨市で20年、温めていたアイデアで特許出願し、2年後に取得した。しかし、いざ会社で遠心力で羽根が広がり、滑らかな回転を生み出すことができるという。



新型ロータリーエンジンの試作機と堀内政晴さん(名古屋市中川区)

## 「一日も忘れず」アイデア進化

「回らなかった」。理論と実際の違いにぶつかった。

71年に故郷の愛知県に戻り、75年、より多くの発明品を生み出すとの気概を込めて「アイデア技研」を一人で創業。倉庫のような約80平方メートルの工場で、機械部品を作り続けた。

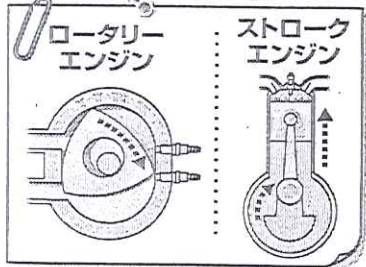
68歳だった5年前の夏、ひよんなことから夢が再び動き出す。交通事故で下半身が不自由になった飼猫

が、懸命に後ろ足を縮め、一方で前足をぐぐぐと前に伸ばしてのびをした。

また、ピンときた。「4枚の羽根を連動させれば遠心力を吸収できる」。修正したアイデアで2011年11月、再び特許出願した。

「エンジンのことは一日も忘れたことはなかった」。そんな堀内さんの話を名古屋商工会議所が聞きつけ、協力を申し出た。部品を作る15社と名古屋工業大学を紹介され、今年2月からチームとして本格的に開発を始めた。

「このハゲも動章だ」。実用化には、あと3年はかかりそうだ。しかし、新型の最大の特徴は、部品が30点前後と一般的なエンジンの10分の1程度で済む点だ。製作費が抑えられ、町工場でも組み立てられる。また、大型化ができれば船舶用に最適で、コンプレッサや油圧ポンプへの転用も可能といわれている。



ロータリーエンジン エンジン内でローターを回し、車軸の回転運動に換える個性的なエンジン。軽量でありながら出力が大きく、構造はシンプルで「夢のエンジン」と呼ばれた。

マツダが1967年に世界で初めて量産化に成功。同社の主力エンジンのひとつとして知られてきたが、2012年6月に生産を終えたスポーツ車「RX-8」を最後に、搭載する車種を生産していない。

「もちろん、実用化できれば最高の結果。ただ、正直、動いた時点で私の夢はかないました」。試作機のエンジン音を聞きながら、幸せな気持ちに浸っている。(安田家典)